JFMだより

［JFMとは、Japan Finance Organization for Municipalities の略称です。］

Vol.20

INDEX

融資の実　広島県呉市　呉市役所庁舎 ―― P01
がんばる公営競技　伊勢崎オートレース ―― P05
自治体ファイナンスよもやま話 ―― P07
地方支援ダイアリー ―― P09
基金運用ひとくちメモ ―― P11
人事交流日記＆ふるさと紹介 ―― P13
編集後記 ―― P14
機構からのお知らせ ―― P15
私たちもJFM債買ってます！ ―― P15

地方公共団体金融機構
Japan Finance Organization for Municipalities

呉市役所庁舎外観

Feature

広島県呉市
呉市役所庁舎

融資の実

呉市の新たなランドマーク
次世代への持続・発展を象徴する新庁舎

呉市の新たなランドマークとなる市役所新庁舎が、平成27年12月に完成し、28年2月から業務を開始しました。新庁舎は、『市民と共に～絆と信頼「安全・安心」の庁舎～』を基本理念に、次世代に引き継ぐ資産として建設されました。重厚さの中に未来へと続く技術の融合をイメージした、新たなまちのシンボルとしてふさわしい堂々たる姿が印象的です。

メインエントランス

庁舎建設に至る長い道のり

「昭和37年に建設された旧庁舎は、平成7年に発生した阪神・淡路大震災を受け、9年に耐震診断を実施したところ、『震度6程度の地震でせん断破壊のおそれがある』との結果が出ました。そこで設置された呉市庁舎整備検討懇話会において検討され、『財政的に大きな負担があるにしても建て替えるべきである』との提言を受けました。」（呉市総務部・先岡孝幸参事補/「」内のコメント以下同）

その後、いわゆる『平成の大合併』により、平成15年には下蒲刈町と合併、16年には川尻町と合併、更に17年には音戸町、倉橋町、蒲刈町、安浦町、豊浜町及び豊町と合併し、『新呉市』が誕生しました。

『新呉市』では、庁舎建設は長年の懸案事項であるものの、まずは財政の健全化を優先することとなり、平成19年度に『財政集中改革プログラム』を策定し、翌20年度から5年間取り組むこととなりました。

平成23年2月に『財政集中改革プログラム』の達成に見通しが立ったことから、新庁舎の建設に向けて調査・検討を進め、数々の手続きを経て、24年12月には建設工事入札の運びとなりました。当初、工事に伴う地元貢献や技術提案を求めた総合評価方式により入札を実施しましたが2回の中止、25年7月に入札方式を一般競争入札に変更して3回目の入札を実施し、同年10月の着工に至ったものの、インフレスライドのため2回契約を変更し、27年12月にようやく完成に至りました。

「庁舎建設を振り返り、平成13年に芸予地震が発生し、市庁舎は震度5強の揺れにより多数の亀裂が入る被害を受け、更に23年の東日本大震災を目の当たりにし、危機感を抱くとともに、市庁舎が防災拠点としてしっかり機能することの重要さを痛感しました。」

合併後、財政健全化に取り組んだ上、合併により合併特例債を活用することができたので、市の財政負担を軽減して建設することができました。

6つの基本コンセプト

新庁舎は、庁舎棟（地上9階）、議会棟（地上4階）、市民ホール棟（地上3階）、駐車場棟（地上5階）の4棟から構成され、『市民の生命と財産を守る庁舎』、『市民にやさしい庁舎』、『市民のまちづくりの拠点となる庁舎』、『呉らしさが感じられる庁舎』、『多機能で環境にやさしい庁舎』、『将来の変化に対応できる庁舎』の6つの基本コンセプトのもと設計されました。

『市民の生命と財産を守る庁舎』としては、庁舎棟、議会棟及び市民ホール棟に免震構造を採用して高い耐震性を有し、防災会議室、情報管制室を常設し、大災害時には、くれ絆ホールやシビックモール等も活用して対策・復興本部機能を備えた

本庁舎手前の旧庁舎は取り壊され来庁者駐車場へ

免震装置

防災会議室

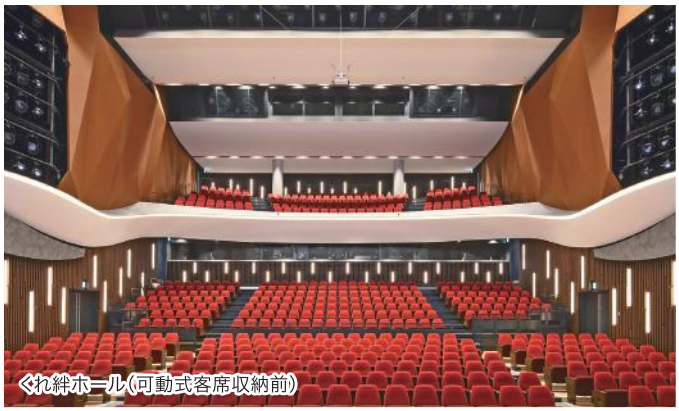
防災拠点として活用されます。581席のくれ絆ホールは、1階を平面空間にできる可動式客席を導入し、国や県、警察、自衛隊、海上保安部、ライフライン関係者、医療関係者等からなる災害対策支援本部として使われることを想定しています。また、くれ協働センターはボランティアセンターとして、公共空間であるシビックモールは、災害状況や安否情報等の情報発信をはじめ、市民への物資の配布スペースとして機能します。

『呉らしさが感じられる庁舎』としては、建物デザインに関して、呉らしさがイメージでき、長く愛され親しまれるデザイン、周辺の環境と調和したデザイン、重厚さを感じさせるデザインを追求しています。「呉の歴史的建造物である海上自衛隊呉地方総監部庁舎（旧呉鎮守府庁舎）などに見られる建築様式をモチーフとして、低層部に御影石を用い、特にメインエントランスの9本の柱には、国会議事堂にも使用されている地元倉橋島産の桜御影石を採用しています。」高層部は磁器質タイルを主に、ステンレスやアルミのアクセントを加えた縦型ルーバーを配し、未来へと続く技術の象徴を表現しています。また、緑豊かな環境と調和するよう、外壁はアイボリーを基調としたやわらかな色調とし、周囲の山並みをイメージした緑色の寄せ棟の屋根を設けています。

『多機能で環境にやさしい庁舎』としては、庁舎内にLED照明を採用し、消費電力の低減につながる人感センサーの導入、事務室の二重サッシ構造など、省エネルギー化を基本にトータルライフコストに配慮しています。1階に採用した床暖房は光熱費のランニングコストを抑えるとともに、やさしい暖房による快適な室内環境をつくり出しています。

『市民にやさしい庁舎』としては、「庁舎棟1階に総合窓口を新設し、旧庁舎では分散していた窓口を集約して、訪れる方の用件がスムーズに済むワンストップサービスを実現しました。更に、広々とした開放的なフロアや分かりやすいサイン表示、おやこトイレや多目的トイレ、授乳室、二段手すりなどを設置して、誰もが安全・安心・快適に利用できるユニバーサルデザインを導入し、市民目線の庁舎を目指しました。」

新庁舎には、1日平均2000人を超える利用者が訪れています。市が行ったアンケートなどによる利用実態調査では、窓口が分かりやすく使いやすくなった、明るくて快適になったなどの意見が多く、市民からは高い評価を得ています。


くれ絆ホール（可動式客席収納前）

くれ絆ホール（可動式客席収納後）

桜御影石が使われた柱

シビックモール

すべての市民、職員にとっての快適を目指す

新庁舎建設に際し、職場環境改善のため、若い職員や女性職員の意見を積極的に取り入れました。「各階に昼食に利用できる休憩室を設けました。これにより、事務室内での飲食を禁止したので、来庁者、職員とも気まずい思いをしなくなりました。また、シャワー室や和室は、24時間体制が必要な非常時にも機能する施設として設置しています。」事務机は規則的なレイアウトで固定されていて、人事異動の際は、各自のキャスター付きワゴンを移動させるだけで済むよう機能性に配慮されています。また、慢性的に数が不足し、庁舎外の公共施設を利用することもあった会議室や資料を保管する書庫も十分に備え、業務の効率化を実現しています。「新庁舎は、すべての市民、職員にとっての快適を目指した、呉市の今後100年を見据えたランドマークです。」

「日本遺産」に選定された歴史あるまち。多彩な観光資源が魅力の呉市。

平成28年4月に中核市に指定された呉市は、広島県の南西部に位置し、瀬戸内海に面した気候温和で自然に恵まれた臨海都市です。

明治時代には呉鎮守府が開庁し、呉海軍工廠において戦艦大和が建造されるなど、帝国海軍の拠点として栄えました。呉海軍工廠は優れた造船技術を持ち、先進的な鉄鋼製造研究も行われていました。戦後、軍需基地としての都市基盤は失いましたが、平和産業港湾都市への転換を目指す旧軍港市転換法が制定されたことにより、旧軍施設への積極的な企業誘致が行われ、造船、鉄鋼、機械金属、パルプ等の企業が相次いで進出し、臨海工業地帯としての基盤を確立しました。また、旧呉鎮守府庁舎が呉地方総監部庁舎として使用され、海上自衛隊呉地方隊が置かれるなど、引き続き海上防衛の拠点となっています。

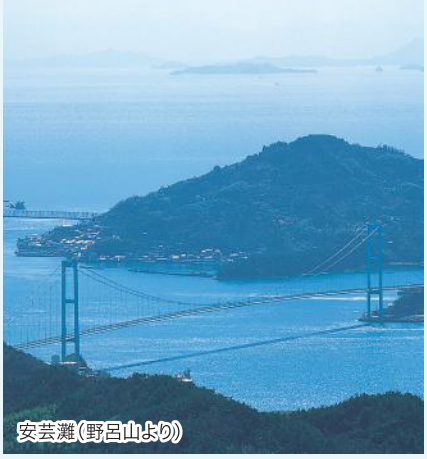
現在では、呉港エリアにある「大和ミュージアム（呉市海事歴史科学館）」や「てつのくじら館（海上自衛隊呉歴史館）」などで呉の歴史等を知ることができ、連日多くの人々が訪れています。

また、島しょ部の史跡や自然も注目を集めており、安芸灘とびしま海道と呼ばれる7島には、江戸時代に朝鮮通信使を迎えた下蒲刈島、国の重要伝統建造物保存地区に選定されている「御手洗の町並み」が残る大崎下島などがあります。その他、音戸エリアには平清盛が1日で切り拓いたと伝えられる名勝地「音戸の瀬戸」、日本の渚・百選に選ばれた「桂浜」のある倉橋島などがあります。

更には平成28年4月、「鎮守府　横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本近代化の躍動を体感できるまち～」が、地域の歴史的魅力や特色を通じて我が国の文化・伝統を語るストーリーとして、文化庁から「日本遺産」に認定されました。躍動した往時の姿を残す呉市は、どこか懐かしくも逞しく、今も訪れる人々を惹きつけてやみません。

呉市は、瀬戸内の多様な歴史資源と美しい景観を有する魅力にあふれています。

海上自衛隊呉地方総監部第一庁舎


安芸灘（野呂山より）

広島県呉市

人口　231,604人（平成28年10月末現在）
世帯数 111,843世帯（平成28年10月末現在）
面積　352.80km²